

25. 花き類・観葉植物

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
M4	オーソサイド水和剤 80	苗立枯病	散布	-	8回以内	600倍	C		花き類・観葉植物 (ばら、りんどう、 せんいちこう、コス モス、ひまわり、シセ リア、スイビー、みや こわすれ、アンスリウ ム、斑入りアマト [®] コ を除く)
	(ダズメット) ガスタード微粒剤	萎凋病 球根腐敗病 根頭がんしゅ病 首腐病 白絹病 半身萎凋病 立枯病	本剤の所 定量を均 一に散布 して土壌 と混和す る	は種又は 植付前	1回	20~30kg/10a	A		花き類・観葉植物
	バスアミド微粒剤	萎凋病 球根腐敗病 根頭がんしゅ病 首腐病 白絹病 半身萎凋病 立枯病	本剤の所 定量を均 一に散布 して土壌 と混和す る	は種又は 植付前	1回	20~30kg/10a	A		花き類・観葉植物
NC	カリグリーン	うどんこ病	散布	発病初期	-	800倍	A		花き類・観葉植物 (きくを除く)
10+1	ゲッター水和剤	灰色かび病	散布	-	5回以内	1000倍	A		花き類・観葉植物 (ひまわり、ゼラニ ウムを除く)
M1*	サンヨール	うどんこ病	散布	発生初期	8回以内	500倍	B		花き類・観葉植物 (きく、ばら、ハチ ュゴ、スターチス、プリム ラ、パンジーを除く)
		灰色かび病							
12	セイビアーフロアブル 20	灰色かび病	散布	発病前~ 発病初期	4回以内	1000倍	B		花き類・観葉植物 (きんせんか、初 イトレスフラワーを除 く)
1	トップジンM水和剤	菌核病	散布	-	5回以内	1500倍	A		花き類・観葉植物 (トコギキョウを除く)
-	ドロクロール	萎凋病(フザリウム菌)	土壌 くん蒸	-	2回以内 (但し、 床土は1 回以内、 圃場は1 回以内)	<床土・堆肥>1 穴あたり 3~ 6ミリリット <圃場>1穴 あたり 2~3 ミリリットル	C		花き類・観葉植物
		青枯病							
		半身萎凋病							
U6+3	パンチョT F 顆粒水和 剤	うどんこ病	散布	-	2回以内	2000倍	B		花き類・観葉植物
9	フルピカフロアブル	灰色かび病	散布	発病初期	5回以内	2000 ~ 3000 倍	B		花き類・観葉植物 (ばら、スターチス、宿 根かすみそう、ゆ り、りんどうを除 く)
M3+1	ホーマイ水和剤	フザリウム・リゾクトニア菌 による病害(苗立 枯病等)	種子処理 機による 種子粉衣	は種前	1回	種子重量の 1.0%	C		花き類
19	ポリオキシシAL水 溶剤	うどんこ病	散布	発病初期	8回以内	2500倍	A		花き類・観葉植物
		灰色かび病							
		黒斑病							
M7+19	ポリベリン水和剤	灰色かび病	散布	発病初期	8回以内	1000倍	A		花き類・観葉植物 (ストック、スターチス、チ ューリップ、ばら、クル マ、きくを除く)
M10	モレスタン水和剤	うどんこ病	散布	発病初期	10回以 内	2000 ~ 3000 倍	B		花き類・観葉植物 (カーネーションを除く)
7	モンカットフロアブル 40	白絹病	株元散布	-	3回以内	1000 ~ 2000 倍	B	注 意	花き類・観葉植 物
11+4	ユニフォーム粒剤	立枯病 (リゾクトニア菌)	土壌表面 散布	定植時又 は生育期	3回以内	18kg/10a	B		花き類・観葉植物
14	リゾレックス粉剤	立枯病	土壌混和	定植前	1回	50kg/10a	A		花き類・観葉植物
	リゾレックス水和剤	株腐病	土壌灌注	生育期	5回以内	500~1000倍	A		花き類・観葉植物

FRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
14	リゾレックス水和剤	茎腐病 立枯病	土壌灌注	生育期	5回以内	500～1000倍	A		花き類・観葉植物

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	病害虫名	使用方法	使用時期	使用回数	希釈倍数	魚 毒	蚕 毒	備考
4	アクタラ粒剤5	アブラムシ類	株元散布	生育期	1回	6kg/10a	A	注意	花き類・観葉植物
	アクタラ顆粒水溶剤	ハダニ類 ミカンキョウアザミウマ	散布	発生初期	6回以内	2000倍 1000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (宿根アスター、トルコキキョウ、きくを除く)
3	アディオオン乳剤	ヨウムシ類	散布	発生初期	6回以内	2000倍	C	注意	花き類・観葉植物 (はばたんを除く) 指定農薬
4	アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類	散布	発生初期	5回以内	2000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (きくを除く)
6	アフファーム乳剤	ハダニ類	散布	発生初期	5回以内	1000倍	C	注意	花き類・観葉植物
		アザミウマ類				2000倍			
		ヨウムシ類				1000倍			
1	オルトラン粒剤	アザミウマ類	株元散布	発生初期	5回以内	3～6kg/10a	A		花き類・観葉植物 (きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たदैあいを除く)
		アブラムシ類				6kg/10a			
		ヨウムシ類							
1	オルトラン水和剤	アザミウマ類	散布	発生初期	5回以内	1000～1500倍			花き類・観葉植物
		アブラムシ類				1000倍			
		ヨウムシ類							
1	オンコル粒剤5	アザミウマ類	株元散布	生育期	3回以内	6kg/10a	B-s		花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)
13	コテツフロアブル	ハダニ類	散布	発生初期	2回以内	2000倍	C		花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)
		ヨウムシ類							
1	スプラサイド水和剤	ハダニ類	散布	発生初期	6回以内	1000倍	B		花き類・観葉植物 (アブラムシ、シクラメン、すいせん、チュリップ、ゆりを除く)
	スプラサイド乳剤40	ヨウムシ類	散布	発生初期	6回以内	1000倍			
9	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類 コナジラミ類	散布	発生初期	4回以内	5000倍	A		花き類・観葉植物
12	テデオオン水和剤	ハダニ類	散布	発生初期	10回以内	500～1000倍	A		花き類・観葉植物
10	ニッソラン水和剤	ハダニ類	散布	-	2回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物
15	ノーモルト乳剤	ヨウムシ類	散布	発生初期	2回以内	2000倍	B	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
10	バロックフロアブル	ハダニ類	散布	発生初期	1回	2000倍	A	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
21	ピラニカEW	ハダニ類	散布	発生初期	1回	2000倍	C		花き類・観葉植物 (カーネーション、きくを除く)
4	ブルースカイ粒剤	アブラムシ類	植穴土壌混和	定植時	1回	2g/株	A		花き類・観葉植物
			株元散布	生育期	5回以内				
4	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	散布	発生初期	4回以内	1000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (ばら、きくを除く)
	ベストガード粒剤	アブラムシ類	生育期 株元散布	発生初期	4回以内	1～2g/株			
1	マラソン乳剤	アブラムシ類	散布	発生初期	6回以内	2000～3000倍	B		花き類・観葉植物
4	モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類	散布	発生初期	5回以内	2000～4000倍	A	注意	花き類・観葉植物 (ストック、りんどうを除く)
7	ラノーテープ	コナジラミ類	作物体の付近くに設置する	栽培期間中	1回	50平方メートル/10a	B	注意	花き類・観葉植物 (施設栽培)
3	ロディー乳剤	アブラムシ類	散布	-	6回以内	1000倍	C	注意	花き類・観葉植物 指定農薬
-	粘着くん液剤	ハダニ類	散布	発生初期	-	100倍	A		花き類・観葉植物

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 薬害は、すべての品目に確認できていないので使用に際しては十分留意する。